



紹介者

荒木 秀文

太陽工業
取締役社長

藤森 伸彦

藤森工業
取締役副会長



ポストコロナの環境変化

昨今、コロナ終息後の私たちの生活やビジネス環境がどのようなになるのかという話題を多く見掛けます。終息後もコロナ感染拡大前の日常に戻ることはないと思います。

今まで“働き方改革”と言われても進捗^{しんちよく}しなかった命題が、コロナ感染拡大で在宅勤務、テレワークが一般化して、皮肉にも急激に改革が加速されたのは事実です。在宅勤務ではweb上の会議進行で効率が上がったという声も聞きます。一方では、リモートうつなどの問題も見つかりました。“働き方改革”から“働き甲斐改革”、そして自分の“生き方改革”にいかに関与されるかが次の課題となるのでしょうか？ ワークライフバランスを越えて、ワークインライフ、生活の中に仕事があると考えて、家庭や趣味の中で、豊かな心の醸成と自己実現、その中で生産性の良い仕事の仕方の模索でしょうか？ 在宅勤務での管理の方法論はいろいろとされていますが、仕事のやり方ではなく、最終的に効率、生産性を上げる目的においては、徹底した成果主義だけが人の評価基準になっていくのでしょうか？ いろいろな課題がポストコロナ時代には残されています。

ジュネーブ国際問題高等研究所のポールドウィン教授は著書の中で“あなたの仕事は離れた所からでもできますか”という問いに、もしできるなら、その仕事はなくなる危険性があると言っています。バーチャル移民／遠隔移民という存在に取って代わられるリスクがあるというのです。全ての業種にあてはまるとは思いませんが、AIやコストの安い国の優秀な人に、遠くから代替できる仕事は、確かに置き換わる可能性を秘めています。

個人的には、在宅勤務が有効であっても、実際に人に会い、擦り合わせ、空気を読むコミュニケーション、時代遅れの飲みニケーションがAIや遠隔移民より、自分の価値を高めて優位に立つとも思いたい還暦世代であります。おっさんにも幸あれ！

家で奥様と些細なことで喧嘩にならないよう、早くワクチンや薬ができて、コロナもただの風邪だからという日が来るのが一番。熟年離婚からコロナ離婚にならないように、亭主元気で留守がいい！

▶▶ 次回リレートーク

渡邊 健太郎

エコーラボ合同会社
代表執行役員社長